

グリーンインフラの活用推進について

国土交通省 総合政策局 環境政策課
令和8年9月

「グリーンインフラ」とは

※「グリーンインフラ推進戦略2030」における定義

グリーンインフラとは、自然の多様な機能を活用した社会資本であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するもの。

これは、人と自然の関わりから形成されるものであり、戦略的な計画、持続的な維持管理、幅広いステークホルダーの参画などを通じてより大きな効果の発現が期待できる。

グリーン

自然の多様な機能



インフラ

国土、都市、地域づくり



グリーンインフラの活用推進



インフラ
国土・都市
地域づくり



種類
(主な効果)

自然の多様な機能を活用した社会資本

グリーンインフラ



雨庭
(防災減災・景観)



屋上緑化
(暑熱対策・景観)



公園・広場
(健康・コミュニティ・防災)



オフィス緑化
(気候変動・価値の向上)



道路緑化
(気候変動の緩和・健康)



流域治水との連携
(生物多様性・防災減災)



砂浜
(防災減災・生物多様性)



ブルーインフラ
(気候変動の緩和・生物多様性)



効果をより大きくするための
ソフト施策



戦略的な
計画



幅広い
ステークホルダー



持続的な維持管理



社会課題解決に向けたグリーンインフラの実装を進めます！

持続的で快適な都市・生活空間の形成 防災・減災 暑熱対策 生物多様性の確保 地域経済の活性化 温室効果ガスの削減 循環型社会の形成

情報発信にも力を入れて取り組みます！

GREEN×EXPO 2027で
グリーンインフラを見つけてみませんか？
各種イベントや実証実験を企画中です
ぜひご来場ください！



公式マスコットキャラクター
トウキョウトウキョウ
©Expo 2027



グリーンインフラに
取り組んでみませんか？
プラットフォーム会員を
随時受付中です！



グリーンインフラの活用が
当たり前の社会を目指します！
グリーンインフラ推進戦略2030
を取りまとめました！



「グリーンインフラ推進戦略2030」の策定について

- 世界各国における「自然を活用した解決策」(NbS)に関する取組の進展や、国内における「第六次環境基本計画」をはじめとした、環境・地域活性化・防災等に関する様々な政府計画の策定などを踏まえ、2025年6月に策定した「国土交通省環境行動計画」に係る実行計画として新たに「**グリーンインフラ推進戦略2030**」を策定。
- 本戦略の計画期間を2030年度までとし「**グリーンインフラの活用が当たり前の社会**」の実現を図る。また、2050年に向けて「**自然共生社会**」の実現を目指す。
- 本戦略のポイントは以下の3点。
 - ① グリーンインフラの普及に資するよう、**定義や効果等**を整理した上で**更に分かりやすく説明**。
 - ② 「グリーンインフラの活用が当たり前の社会」の実現に向けた**分野横断的な環境整備策**をまとめ、初めて**20項目のKPIを設定**。
 - ③ 社会課題解決に向けた**グリーンインフラを実装する国土交通省の個別事業等**を体系的に整理し、代表的な**19項目のKPIを設定**。

【グリーンインフラの例：雨庭】



熊本県立南校高等学校の雨庭

雨水を碎石や土壌に一時的に貯留し、緩やかに地中に浸透させるG I。排水の低減による「**防災・減災**」効果のほか、**生物多様性保全**等の**多様な効果**を発揮

【グリーンインフラのこれまでの歩み】

2015年	・ 「第二次国土形成計画」「第4次社会資本整備重点計画」 閣議決定	「グリーンインフラ」が政府の計画に初めて盛り込まれる
2019年	・ 「グリーンインフラ推進戦略」	
2020年	・ 「グリーンインフラ官民連携プラットフォーム」設立 ・ 「グリーンインフラ大賞」の開始	附帯決議に、流域治水の取組においては「グリーンインフラの考えを推進する。」旨が盛り込まれる
2021年	・ 「流域治水関連法」成立	
2023年	・ 「生物多様性国家戦略2023-2030」(閣議決定) ・ 「グリーンインフラ推進戦略2023」 ・ 「グリーンインフラ産業展」の開始	本格的な社会実装フェーズへの移行を打ち出すとともに、取組にあたっての視点や国交省の取組を総合的・体系的に整理
2024年	・ 「ネイチャーポジティブ経済移行戦略」策定(環境省・農水省・経産省・国交省) ・ 「都市緑地法の一部を改正する法律」成立	
2025年	・ 「道路法等の一部を改正する法律」成立 ✓ 国の道路脱炭素化基本方針に基づき、道路管理者が道路脱炭素化推進計画を策定する枠組みを導入 ・ 地域生物多様性増進活動促進法に基づく「自然共生サイト」の運用開始 ・ 「国土交通省環境行動計画」	
2026年	・ 「グリーンインフラ推進戦略2030」	・ 更なるグリーンインフラの推進に向けて定義や効果、特徴を分かりやすく整理 ・ 分野横断的な環境整備策とグリーンインフラを実装する国土交通省の個別事業等を体系的に整理しKPIを設定

「グリーンインフラ推進戦略2030」の概要

①グリーンインフラ（GI）の定義・効果

【定義】

自然の多様な機能を活用した社会資本であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するもの。

これは、人と自然の関わりから形成されるものであり、戦略的な計画、持続的な維持管理、幅広いステークホルダーの参画などを通じてより大きな効果の発現が期待できる。

【効果】

自然の多様な機能

- ・ 生息地保全
- ・ 水源涵養
- ・ 雨水の貯留・浸透
- ・ 水質・大気質の維持・改善
- ・ 気温の緩和・調整
- ・ 緑陰形成
- ・ 景観形成 等

インフラに活用

環境的效果

- ・ 生物多様性の保全
- ・ 健全な水循環の保全
- ・ 良好な生活環境の形成
- ・ 気候変動の緩和 等

社会的効果

- ・ 食料の安定供給
- ・ 健康増進
- ・ 防災・減災
- ・ 地域コミュニティの形成
- ・ 子育て・教育 等

経済的效果

- ・ 不動産価値の向上
- ・ にぎわいの創出
- ・ 観光振興
- ・ 移住・定住・二地域居住
- ・ 生産性向上 等

+ 相乗効果による **ウェルビーイング向上**

②分野横断的な環境整備策・KPI

— 国民的な機運・理解の醸成 —

・GI官民連携プラットフォームの運営

全会員数 2,150者(R7) → 5,000者(R12)

・GI大賞、TSUNAGなど先駆的な取組を表彰する制度の事例周知・横展開

GI大賞の累計受賞件数 76件(R6) → 150件(R12)

・GI産業展、GREEN×EXPO 2027を通じた機運醸成

GREEN×EXPO 2027の有料来場者数 1,000万人(R9)



— 多様な効果の見える化 —

・GIの実装による社会課題解決への実効性および貢献度の定量的・定性的な

評価手法の運用に向けた検討

GIの評価手法に関する実用者向けのガイドラインを2029年度までに策定し周知

— 官民の取組を促進する環境整備 —

・地方創生の取組を行う地方公共団体への財政的・技術的な支援

地域における地方創生実現のためのGIガイドライン（仮称）

を2026年度までに策定し周知

・GIの維持管理手法に関するノウハウの情報収集・分析

GIの効率的な維持管理に関するガイドラインを2027年度までに

策定し周知

地域コミュニティ主体の維持管理



— 資金調達の円滑化 —

・グリーンインフラに関するファイナンスガイドライン（仮称）の周知・実践

政令市が存在する全都道府県でGIに関する融資又は金融商品を1件以上創出

— 新技術・DXの活用 —

・GI関連の技術開発に取り組む企業への財政的支援

新技術を地域で実証した件数 12件(R6) → 32件(R12)

— 国際展開 —

・「新たな国際標準戦略」(R7.6知財本部決定)に基づいた日本主導によるGIの評価の枠組みの国際標準化(ISO化)

GIの評価の枠組みを2027年度までにISO化

③GIを実装する国土交通省の個別事業等・KPI

— 共通 —

・都市公園・緑地等事業による都市緑地の確保

都市域における水と緑の公的空間確保量 14.2m²/人(R5) → 15.2m²/人(R12)

・道路緑化の推進

CO₂吸収量の確保に向けた街路樹の世代交代の推進

— 持続的で快適な都市・生活空間の形成 —

・居心地がよく歩きたくなる交流・滞在空間

滞在快適性等向上区域を設定した市町村数 132(R7) → 200(R12) 新柏クリニック（柏市）

— 防災・減災 —

・災害リスクの低減に寄与する生態系の機能の保全又は再生

流域治水プロジェクトにおけるグリーンインフラの活用を推進

・雨庭（雨を一時的にためて浸透させる庭）の活用を推進

GI官民連携プラットフォーム会員のうち「雨庭」に関する取組をした会員数：500者(R12)

— 暑熱対策 —

・屋上緑化や壁面緑化による蓄熱の防止

屋上緑化施工面積 227.7ha(R5) → 302.1ha(R12)

— 生物多様性の確保 —

円山川水系に整備された大規模湿地

・流域全体での生物多様性の保全・再生

河川整備計画(国管理河川)のうち、河川環境の定量的な目標を位置付けた割合 0%(R6) → 43%(R12)

— 地域経済の活性化 —

・ガーデンツーリズムの推進

登録計画の取組推進、新規計画の登録推進

— 温室効果ガスの削減 —

・ブルーインフラの保全・再生・創出

ブルーカーボンのCO₂吸収・固定量 34万t-CO₂(R5) → 100万t-CO₂(R17)

— 循環型社会の形成 —

・剪定枝や落ち葉等のチップ化、堆肥化等による有効活用

剪定枝や落ち葉等の有効活用事例が増加



海草藻場

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム

- 国土交通省において、**産学官の多様な主体が参画**し、グリーンインフラに関する様々なノウハウ・技術等を持ち寄る場として、「**グリーンインフラ官民連携プラットフォーム**」を令和2年3月に設立。
- 「企画・広報部会」、「技術部会」、「金融部会」を設置し、グリーンインフラの社会的な普及、活用技術やその効果評価等に関する調査・研究、資金調達手法等の検討を進め、グリーンインフラの社会実装を推進。

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム（R2.3設立）

会員

都道府県
市区町村

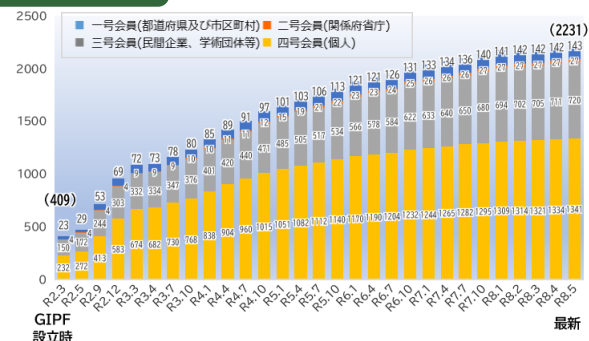
関係府省庁

民間企業
学術団体等

個人

運営体制

会 長：西澤敬二（経団連自然保護協議会 会長）
会 長 代 理：涌井史郎（東京都市大学 環境学部 特別教授）
運 営 委 員 長：石田東生（筑波大学 名誉教授）



活動内容

企画・広報部会

- グリーンインフラ大賞、産業展

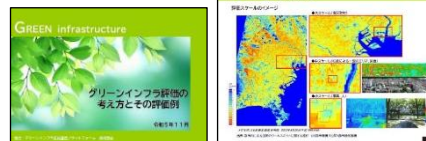


第6回国土交通大臣賞 産業展の出展

- 優良事例ツアー、オンラインセミナー
- アドバイザー制度
- 会員同士のパートナーシップ構築支援
- 事例検索システムの構築 等

技術部会

- グリーンインフラ効果の見える化を図る評価手法の体系的な整理



- GI技術の収集・検索システムの構築
- GI関連資料等のポータルサイト化
- GIの要素技術、評価技術、実証事例等を分析したエビデンス集の作成 等

金融部会

- 多様な資金調達のあり方を検討するための地域モデル実証の実施
- 成功モデルの紹介
- 金融視点からのグリーンインフラの評価指標の検討 等



GREEN×EXPO 2027分科会（令和8年4月～令和10年3月（予定））

- エキスポを活用してどのようにGIの活用推進につなげるか
- GIの活用推進に向け、どのような取組、調査、分析を行うべきか

グリーンインフラ産業展2026

ステージプログラム 会場：メインステージ（東7ホール内） 定員：300名
※掲載情報は2025年11月8日時点のものです。内容は予告なく変更する場合がございますので、あらかじめご了承ください。最新情報は公式Webサイトでご確認ください。

聴講無料

1月28日（水）

1/28（水） 10:15～11:15 グリーンインフラシンポジウム M-01

第6回グリーンインフラ大賞表彰式

開会挨拶 グリーンインフラ官民連携プラットフォーム会長
経団連自然保護協議会 会長 西澤 敬二 氏

表彰式 GREEN×EXPO ラボチャェアパーソン
東京都市大学 特任教授 涌井 史郎 氏



国土交通大臣賞、特別優秀賞、GREEN×EXPO 賞を表彰いたします。
受賞事例について、一部受賞者よりプレゼン発表いただきます。

1/28（水） 11:30～12:20 グリーンインフラシンポジウム M-02 建コン 都計学

GREEN×EXPO 2027が目指す共創の風景

GREEN×EXPO 協会、民間企業等

GREEN×EXPO 2027 の意義とグリーンインフラの可能性について、GREEN×EXPO 協会
や参加を予定する民間企業の担当者とのパネルディスカッションを通じてお伝えします。

1/29（水） 13:00～13:50 グリーンインフラシンポジウム M-03 建コン 都計学

都市と農業の融合が生み出す、 新しいコミュニティの形成 ～多面的な機能を持つ、都市農業とグリーンインフラ～

AGRIKO 代表取締役/俳優 小林 涼子 氏

株式会社AGRIKO が展開する都市型農園の事例をもとに、子どもや子育て世代の女性、障がいのある
方々など、多様な人々が関わる「学びと交流の場」としての取り組みをご紹介します。



小林 涼子 氏

1月30日（水）

1/30（水） 15:00～16:30 グリーンインフラシンポジウム M-13 建コン 都計学

国土交通省施策に見るグリーンインフラの現在地と将来像

【モデレータ】グリーンインフラ官民連携プラットフォーム技術部会長
土木研究所 流域水環境研究グループ長 中村 圭吾 氏

【パネリスト】国土交通省 総合政策局、都市局、水管理・国土保全局、道路局 担当者

国土交通省関係各局が取り組むグリーンインフラ関連施策に関する現状や最新の動向、グリーンインフラ
の今後について、政策立案に関わる実務担当者による講演、ディスカッションを実施します。

閉会挨拶 グリーンインフラ官民連携プラットフォーム技術部会長 中村 圭吾 氏

開催時期：2026年1月28日（水）～30日（金）10:00～17:00

開催会場：東京ビッグサイト 東7・8ホール

主催：日刊工業新聞社 共催：グリーンインフラ官民連携プラットフォーム

後援：国土交通省、環境省、金融庁

備考：4展同時開催（グリーンインフラ・宇宙・防災・G空間EXPO）

3日間累計入場者数：26,659名（前回：26,338名）

出展者数：84社・団体（前回87社）



酒井副大臣 挨拶



基調講演の様子



出展ブースの様子

グリーンインフラ産業展2027

開催時期：2027年3月17日（水）～19日（金）10:00～17:00

開催会場：東京ビッグサイト 東7・8ホール

主催：日刊工業新聞社 共催：グリーンインフラ官民連携プラットフォーム

後援：国土交通省、環境省、金融庁（予定）

備考：5展同時開催

（グリーンインフラ・ファイアテック・宇宙・防災・G空間EXPO）

出展募集を開始しています！

<https://biz.nikkan.co.jp/eve/green-infra/>



グリーンインフラ大賞

★ 今年度も募集開始 ★



グリーンインフラに関する優れた取組・計画事例を表彰します

第7回 グリーンインフラ 大賞

応募受付期間
2026年
7月21日(火)
2026年
9月24日(木)
(17:00 必着)

応募のご案内

グリーンインフラ官民連携プラットフォームでは、2020年度より会員の皆さまからグリーンインフラに関する取組を募集し、優れた取組事例を「グリーンインフラ大賞」として選定し情報発信を行ってまいりました。

優れた取組、企画・計画をグリーンインフラ大賞「国土交通大臣賞」「特別優秀賞」「優秀賞」として表彰、さらにGREEN×EXPO2027のテーマ・サブテーマの展開・具現化にも寄与する取組については、2025年度に新設した「GREEN×EXPO 賞」として表彰します。

応募対象事例 グリーンインフラに関する取組全般を対象
(実施済みの事例だけでなく、企画・計画、施工中の事例も対象)

応募方法 様式に必要事項を記入し提出ください。

詳細や様式のダウンロードはこちら
(国交省プレスリリース)



応募メリット 国土交通省やグリーンインフラ官民連携プラットフォームでの各種PR支援を行います。受賞事例だけでなく全ての応募事例へのPR支援も。詳細はプレスリリースをチェック！

応募資格

グリーンインフラ官民連携プラットフォーム会員であること。

(団体・個人会員)

会員申込はこちら

<https://gi-platform.com/register>



※応募は無料です！

今後のスケジュール

2026年	
7月21日(火)	● 応募受付開始
8月20日(木)	● 応募説明会(WEB) [申し込み不要] 内容: グリーンインフラ大賞の概要や募集要領・応募できる事例の説明、質疑応答等 (※詳細は裏面に記載)
9月24日(木)	● 応募受付終了 [17:00 必着]
※締め切り後の提出書類の差し替えは、原則としてお受けいたしません。	
11月(予定)	● 審査
2027年	
1月(予定)	● WEBサイト公表
3月(予定)	● 表彰 ・GREEN×EXPO 2027会場内にて表彰式を開催予定

「グリーンインフラ技術」も募集しています

グリーンインフラに関する取組で、先進的、もしくは特徴的な技術を採用されている場合は、その技術の紹介も併せて集募しています。(※提出は任意)

応募内容は「グリーンインフラ技術集(技術検索システム)」に掲載し、公表させていただきます。これまでの技術集は、右記から確認できます。



第6回グリーンインフラ大賞「国土交通大臣賞」
調の森SHI-RA-DEにおける
グリーンインフラの長期実証

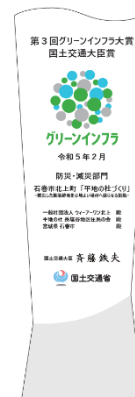


第6回グリーンインフラ大賞「国土交通大臣賞」
大手町タワー(大手町の森)

表彰式の様子



今年度の表彰式の舞台は
GREEN×EXPO 2027!



プラットフォーム会員であれば応募可能(団体・個人)。応募無料。
受賞事例や応募事例には国交省やGIPFより各種PR支援を行います。

報道発表資料: 第7回グリーンインフラ大賞の募集を開始～グリーンインフラに関する優れた取組・計画事例を表彰します～ - 国土交通省

募集期間は「9月24日(木)」までです
ふるってご応募ください！

- 国際園芸博覧会は、国際的な園芸・造園の振興や花と緑のあふれる暮らしの創造等を目的に各国で開催。
- 2027年国際園芸博覧会は、最上位の国際園芸博覧会（A1）として開催するものであり、AIPH（国際園芸家協会）の承認と、BIE（博覧会国際事務局）の認定が必要（我が国では1990年の「大阪花の万博」に次いで2回目の開催）。
- 環境政策課では、園芸博を契機にグリーンインフラの更なる活用を促進するため、様々な企画・調査を検討中。

開催概要

位置付け：最上位の国際園芸博覧会（A1）
国際博覧会条約に基づく認定博覧会

開催場所：旧上瀬谷通信施設の一部（約100ha）
（横浜市旭区・瀬谷区）

開催期間：2027年3月19日～9月26日（6か月間）

参加者数：1,500万人（ICT活用等の多様な参加形態含む）
（有料来場者数：1,000万人以上）
※大阪花の万博では約2,300万人が来場

会場建設費：320億円

会場運営費：360億円

テーマ：幸せを創る明日の風景
～Scenery of the Future for Happiness～

開催者：（公社）2027年国際園芸博覧会協会



政府全体の取組 日本政府苑

種々のグリーンインフラを配置しつつ、日本の自然観を表現

- 2.5ha（東京ドームの約半分）の広大な区画に、屋内外を一体的に構成（「庭屋一如」）した「日本政府苑」を出展。
- 和泉川の源流部を挟んで東西に分棟した木造建築と、伝統的造園技術等を活用した庭を整備。種々のグリーンインフラを配置しつつ、「日本の自然観」をテーマに、人と自然が共生した里山の風景を表現。



環境政策課の取組（案） グリーンインフラクエスト

会場内に実装された雨庭などのグリーンインフラを判別し、その効果を解説するスマホアプリを開発。
冒険ゲーム感覚で会場を巡り、楽しく自然のチカラを学ぶ。

グリーンインフラいきものクエスト みどりの多機能を体感！

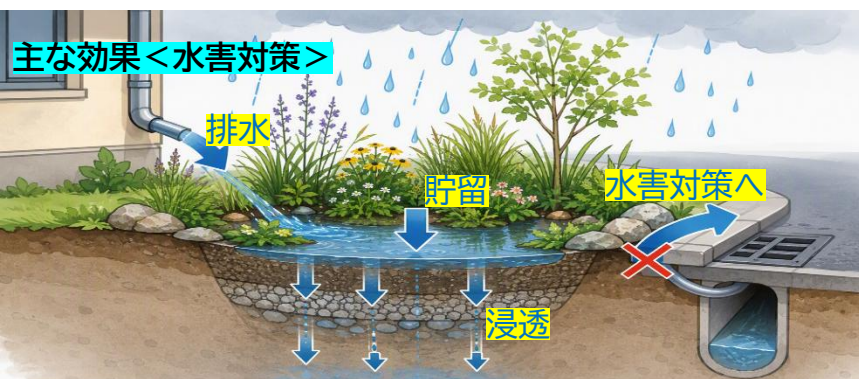


雨庭の活用が広がっています！

【進捗の代表例】

- ・カインズの雨庭サイト創設
- ・NHKにおいて特集放送
- ・日経新聞に掲載 等

雨水を砕石や土壌に一時的に**貯留**し、緩やかに地中に**浸透**させるグリーンインフラ。



その他代表的な効果の例（多数の公共団体、民間企業で実施）

くまもと雨庭パートナーシップ + <水循環の保全>

- ・水道水源のほぼ100%を地下水に依存しているため、雨水を地下に浸透させ、水循環の保全等に努める。

丸の内仲通りレインガーデン(千代田区) + <ヒートアイランド対策>

- ・街路植栽帯を活用した雨庭の実証実験が行われ、ヒートアイランド現象の緩和効果が確認された。

竹中工務店「レインスケープ」 + <生物多様性への貢献>

- ・都市化で減ってしまった昆虫や小鳥が戻ってきやすい環境が生まれ、街の生態系がより豊かになる。



雨の日が楽しみに

憂鬱だったはずの雨の日が、庭を眺める特別な時間になり、手をかけなくても、植物が季節ごとに姿を変化させる。「今日は雨か、庭が育つな」

(画像出典／株式会社カインズHP)

心理的健康の増進

地域コミュニティの形成



雨庭を手づくりする様子

計画段階から地域と連携し、地域課題に根差した整備を参加型で進めることで、住民同士や場との関係が強化され、地域コミュニティの形成にも寄与。

(画像提供／世田谷トラストまちづくり)区立次大夫堀公園内里山農園前にて



良好な生活環境による心地よさ

周辺環境と調和した植物や水景の配置による緑化空間の創出等を通じて良好な景観の形成にも寄与する。

(画像出典／株式会社カインズHP)

良好な生活環境の形成等

雨庭は、国民の安全・安心を支える
“環境的效果”

価値

雨庭は、雨の日を楽しみ、暮らしを豊かにする
“社会的効果”

地域の**雨水貯留浸透機能**の向上に加え、日々の暮らしを豊かにし、**ウェルビーイング向上**にも資するグリーンインフラ